

事業用自動車事故調査報告書 概要

～大型乗合バスの衝突事故～

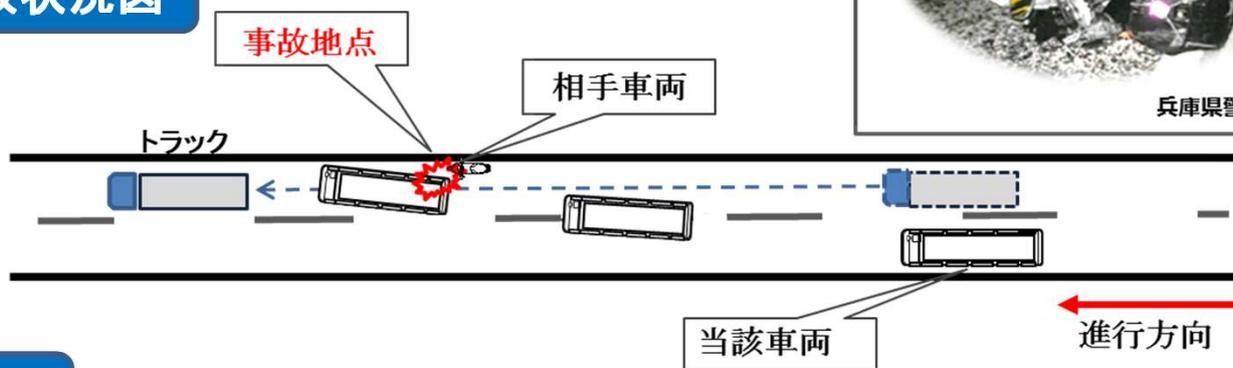
(兵庫県神戸市)

事故概要

平成29年11月17日11時8分頃、主要地方道神戸市道生田川箕谷線下り阪神高速32号新神戸トンネル内の1.9キロポスト付近において、乗合バスが乗客3名を乗せて片側2車線の第1通行帯を走行中に第2通行帯へ進路変更した際、後方より第2通行帯を走行してきたオートバイと同バスの右後部側面が接触し、オートバイが転倒した。
この事故により、オートバイの運転者が死亡した。バスの乗客に負傷者はなかった。



事故状況図



原因

- 事故は、乗合バスの運転者が、**車線変更する際に後方確認が十分でなかった**ことから後方から接近してきたオートバイに気付かず接触したことで起きたものと考えられる。
- 運転者は、片側2車線の第1通行帯を走行中、第2通行帯に車線変更しようとして同通行帯を走行する車両（オートバイ）の存在は認識していたものの、オートバイが**急速に接近していることに気付かなかった**ため、車線変更した際、接触し、オートバイが転倒したものと考えられる。
- 事業者が作成した運転基準図によると、事故地点のトンネル内は車線変更等禁止と記載されていたものの、運行する経路における道路や交通の状況を踏まえた**安全に運行するために必要な指導**が十分でなかった可能性が考えられ、また**同運転者が運転基準図にしたがった運行を行っていなかった**ことが、結果として事故につながったと考えられる。

再発防止策

- ★ 事業者は、輸送の安全を確保するため、次に掲げた取組を徹底することが重要である。
- 運転者に対する事故防止のための指導教育の重要性を認識し、**指導監督指針に基づく指導及び監督を確実に実施**すること。
- 運転者に対し、**運転基準図に基づき**注意を要する箇所や運行の安全を確保するために必要な事項について**適切な指導**を行うこと。
- 運転者の適性診断の結果、指摘を受けた項目に対し適切な指導教育を実施して、具体的な指導内容や資料を基に指導教育を実施するとともに、このことを日常的に自覚させ、改善に努める運転を心がけるよう継続的に指導すること。